

**令和2年度 第6回 高砂市上下水道事業審議会  
議事要旨**

開催日時	令和2年11月30日(月) 13時30分～15時30分
開催場所	高砂市役所 南庁舎5階大会議室
会長等	山口会長、渡部副会長
出席者 (50音順)	西牟田委員、埴岡委員、馬場委員、山口委員、山本委員、渡部委員
欠席者	前田委員
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(2) 工業用水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(3) 下水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(4) その他</p> <p>3 閉会</p>
資 料	<p>&lt;当日配付&gt;</p> <p>(次第書) 第6回高砂市上下水道事業審議会会議次第</p> <p>(資料1) 水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(資料2) 工業用水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(資料3) 下水道事業経営戦略(案)について</p> <p>(資料4) 投資財政計画(収支計画) 2枚</p> <p>広報たかさご12月号</p>
議事の経過	
発言者	発言の要旨
事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>&lt;本日の資料の確認&gt;</p> <p>&lt;本日の進行について説明&gt;</p> <p>&lt;審議会の傍聴の許可、議事経過及び写真撮影の許可、市のホームページへの掲載了承願い&gt; → 承認。</p> <p>&lt;出席者自己紹介&gt;</p> <p>協議事項に入りたいと思います</p> <p>議事進行について、山口会長よろしく申し上げます。</p>

	<p><b>2 協議事項</b></p> <p><b>(1) 水道事業経営戦略(案)について</b></p>
会 長	<p>それでは次第に沿い進めます。水道事業経営戦略(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
上下水道部	<p>「水道事業経営戦略(案)について」を資料により説明。</p>
管理者	<p>補足説明させていただきます。財源の考え方のところで、寄附金は令和4年度以降は計上しないとあります。このことについて前回の審議会後11月20日に開催された高砂市建設環境経済常任委員会で説明いたしました。その中で、令和4年度以降計上しないという前提で計算するのはいかなるものかという質問がありましたので、今回の審議会において、「寄附金全額」と「寄附金半額」の2種類の資料を用意させていただいております。</p> <p>「寄附金全額」の資料をご覧ください。当年度純利益は事務局の説明と変わりませんが、当年度末内部留保資金については金額は異なるもののやはり令和5年度には赤字になります。</p> <p>また、「寄附金半額」の資料をご覧ください。先ほどと同様に当年度内部留保資金が令和5年度に赤字になっております。いずれにしても厳しい状況には変わりないと我々は判断しております。高砂市建設環境経済常任委員会の方ではこれからどういう意見が出るのか今後の議論を待たないといけません、今回この2種類の追加資料を出させていただいた経緯でございます。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。説明がありました内容についてご意見、ご質問はありますでしょうか。</p>
委 員	<p>前回の資料と重複しますが、優先順位の見直しは具体的にどこをどのように見直されたのですか。例えば、配水管の耐震化率を令和12年度に15%目標というのが、本当は30%とするはずだったのが15%になってしまったのか。その優先順位の見直しの具体的なものが見えてこないのをお教えますか。</p>
部 長	<p>上下水道部です。優先順位の見直しについてお答えします。もともと送水管が約20km、配水管が約400kmです。それと米田水源地を再構築しなければならないことと、鉛製の給水管も交換しないといけないという4つの大きな課題があります。</p> <p>それを優先順位をつけるのがなかなか難しいところですが、その中で米田水源地につきましては令和6年度から耐震化工事を始めたいところで、そこを固定させていただいた中で、その費用を基準にしたいと思います。それに対して送水管は400ミリ以上の管につきましては、今現在竜山橋という水管橋の工事を進めていますので、そこを基準にして順次伸ばしていく予定です。</p> <p>しかし配水管につきましては、400kmですので、やはり予算規模が大きくここで優先順位が必要となってきました。そこで、今年と去年で漏水被害が多かった地域</p>

	<p>についてまず優先順位を上げて、あまり漏水被害はないけれど老朽化が進んでいる地域の優先順位を少し下げるといった細かい調整をしたいと考えています。</p>
委員	<p>その優先順位の見直しに伴って、全国平均に比べて低かった高砂市の水道管路の更新率の目標は変わったのでしょうか。</p>
部長	<p>それにつきましては、全国平均と比べて更新スピードは遅れますが、目標としているところは同じです。</p>
会長	<p>その他はいかがでしょうか。 高砂市の水道事業経営戦略（案）はこの優先順位の内容も含めて提出されるということですか。</p>
上下水道部	<p>水道事業経営戦略はこの様式で提出する予定です。</p>
会長	<p>ここで、資料7ページの水道料金30%引き上げとありますが、まだ引き上げの検討等はされてないので、ここでの明記はこれでよいのでしょうか。</p>
上下水道部	<p>会長のおっしゃるように、7ページの財源の考え方の料金のところで、令和5年度に30%の引き上げを設定するとなっています。経営戦略を策定する上でどうしても収支ギャップを解消するというのが前提になっていますので、料金引き上げをシミュレーションとして想定しないと収支ギャップが解消できないため明記しております。ただ、料金引き上げを考える上では具体的に30%が適切かどうか踏まえて今後考えていく必要があると考えます。</p>
会長	<p>計算上は30%必要なことはわかっているのですが、どこまで書くかというところかと思えます。その辺り部長はどのようにお考えでしょうか。</p>
部長	<p>30%という数字につきましては、25%にするのか、35%にするのかというご指摘があり、はっきりと30%と明記してよいものかという議論もあります。当初は水道ビジョンを作成したときに、今年度中に30%の料金引き上げということをやっておりましたので、それと今回のコロナの蔓延などの関係もあり、先延ばしという形で、令和5年度に収支ギャップを解消するために30%という数字を記載しております。この表現につきましてはまたご協議いただければありがたいと思います。</p>
会長	<p>この点はまだ検討の余地があるかとは思いますが、他に何かお気づきになった点はございますか。 30%という数字は一応書いているだけで決まったことではないということですが、これから協議するときに足かせにならないようにしなければと思います。また、30%引き上げといっても個別の家庭の水道料金で考えると、3,000円も</p>

<p>管理者</p>	<p>4,000円も上がるというわけではなくて大体300円程度かと思いますが、市議会の方でもいろいろご指摘の可能性も考えたうえで、もうちょっと柔らかい表現にしたほうがよいのではないかとも思います。</p> <p>はい。管理者どうぞ。</p> <p>例えばこの収支計画のうち、財源についての説明の中で令和5年度に料金を30%引き上げ設定するというように書いております。これは計画・シミュレーションにおいての設定なのですが、令和5年度に30%引き上げをすることで収支ギャップは解消されると言い切る表現はいろいろ考える必要があると思います。また、例えば、令和5年度に30%より低めに引き上げておいて、もう少し間隔を詰めてまた次の引き上げを行うような、なだらかなカーブにしていくのも一つの考え方としてはあると思います。これについては実際の料金改定のときに少しまた細かい議論をさせていただく必要があると考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。</p> <p>この点については、シミュレーション上の30%ということで、あくまでも30%に設定すればこの赤字が解消できるということが6ページの下の表の金額の推移として表れているわけですね。そうすると10年間くらいは黒字を維持できる体質に変えることができるということで、この数字をベースに30%引き上げでシミュレーションしているということなので、あまり30%という数字にこだわらず、わかりやすく説明していただければと思います。</p>
<p>上下水道部</p>	<p><b>(2) 工業用水道事業経営戦略(案)について</b></p> <p>それでは協議事項の(2)工業用水道事業経営戦略(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>「工業用水道事業経営戦略(案)について」を資料により説明。</p> <p>工業用水道の方は、今後も引き続き三菱製紙とカネカの2社との間で協議が進められるということですが、今後企業の営業規模が小さくなれば当然企業側はこれまでどおりでは負担が大きすぎることとなります。その点は契約更新のときの交渉次第ですが、工業用水道は一定の収入が入ってくるというのが現状かと思います。</p> <p>管理者の方から少しこれからの見通しのほうのご説明をお願いします。</p>
<p>管理者</p>	<p>契約している三菱製紙とカネカの2社と定期的に工水連絡会を開き、今後の需要計画などの協議をしています。その中で企業のほうから水道事業への寄附金という形の特別負担金がやはり負担が大きいとの口頭での申し入れがありました。ただ、工業用水路を維持していくための改修や修繕などの維持管理費用については、必要に応じてしっかり負担してくださるというのが基本的なお考えのようです。ですので問題は水道事業に対しての特別負担金(寄附金)であり、これがいつまで続けられるかという</p>

	<p>ところで今後も協議をしていきたいと考えています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。そのような形で工業用水道の経営戦略は2つの会社との交渉次第で今後が決まってくるということです。これは100年間続いてきた経緯の話ですので、なかなか変えるのが難しい部分があるのかとは思いますが、継続して協議していただくことになるかと思えます。</p> <p><b>(3) 下水道事業経営戦略(案)について</b></p> <p>それでは協議事項の(3)下水道事業経営戦略(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
上下水道部	<p>「下水道事業経営戦略(案)について」を資料により説明。</p>
会 長	<p>こちらについて何かご質問、ご意見はございませんか。</p> <p>下水道事業の方は水道事業と違って今のところ収支ギャップが生じないということですので、事業計画を策定する10年間については値上げはなくても十分やっていけるという見通しがあるということです。</p> <p>少し気になったのが、水洗化率が平成29年度92.40%、平成30年度92.63%とほぼ変化していないのはどうしても工事ができないとかそういう理由があるのでしょうか。</p>
上下水道部	<p>下水道計画に入れている地域でもやはり地形的に下水道の整備が不可能な地形などがありまして、そういう地域ではまだ整備できていない状態です。</p>
会 長	<p>これはもう100%にはならないのですか。</p>
部 長	<p>水洗化率につきましては水洗トイレにさせていただく戸数としているのですが、現在市内全域で下水道はほぼ100%に近い状況にあります。地形的に困難なところは残っているのですが、それ以外については整備できてしまったので分母はほぼ上限に達しています。分子につきましては、やはり家屋が古いとか高齢化もあり、自費もかかる話になってきます。ご老人ご夫婦の世帯など浄化槽のくみ取りで慣れている世帯に水洗化のお願いに伺ったりもしているのですが、個人の費用がかかる部分もあり、今の生活で慣れているということでもなかなか苦労しているところです。</p>
会 長	<p>わかりました。その他ございませんでしょうか。</p> <p>先ほどのお話で水洗化率もほぼほぼ100%ということで、もう本当にどうしようもないところだけ残っていると、ご家庭の事情でできない世帯もあるということですね。何かお気付きになった点はございませんか。</p>
委 員	<p>将来の事業環境のところで、下水道事業のほうの人口予測で気になったのですが、</p>

	<p>水道事業経営戦略（案）4ページの高位予測の人口と、この資料の4ページの人口と違うのは何か理由があるのですか。</p>
上下水道部	<p>基本的に財源となる水道料金収入、下水道使用料収入ですが、そこは厳しめに見ますので社人研の低位予測で行っておりまして、上の高位予測は高砂市水道ビジョンの水道と同じ数値です。しかし水道事業については加古川市米田町とか市外給水の人口まで入っておりますので、この資料ではその辺を省いた高砂市水道ビジョンを基に作成しているため、数値が異なっています。</p>
会 長	<p>数字を2つ使うと確かにちょっと分かりにくくなるかもしれませんね。</p>
部 長	<p>人口の考え方につきましては、財源になる水道料金、下水道使用料については料金収入が厳しくなることを想定して社人研が出している低位予測の数値を使用しています。</p> <p>施設や設備に関しては、人口減少が緩やかだった場合を想定して、その人口予測において処理場や水源地の規模をどれほど縮小できるかなどのシミュレーションをするために、高位予測の数値を使用しています。</p>
会 長	<p>わかりました。要するに料金収入は人口が最も減少した時を想定してシミュレーションしており、設備の整備は処理能力や給水能力が追い付かなくなる可能性があるので人口が高止まりした場合を想定しているということで、2つの予測を併用しているということですね。</p> <p>その他なにかご質問等ございませんか。</p>
委 員	<p>組織の見直しのところで、現行職員を維持することとあるのですが、職員数としては約60名ですが年齢構成を見ると、10年後に現行の職員数を維持できるのかなという心配もあるのですが、大丈夫なのですか。</p>
部 長	<p>確におっしゃるとおりで、職員年齢構成で年齢が高い部分がありますが、高砂市の組織改正で申しましたように、上下水道を統合したときに事務も統合し、今年度からは土木の環境部門も統合し、来年度は化学、電気、機械の部分を統合して、それぞれの中で技術を継承して、後年の若い者に世代を引き継いでいくような形で年齢構成を変えていって、より効率的にと考えています。今まで水道は水道担当、下水道は下水道担当のような事業のやり方でしたが、これからは両方ができるようにそれぞれの技術力を上げていった中で、下水道事業に関することを対応していきたいと考えております。</p>
委 員	<p>といことは、職員は減らしていくということですか。</p>
部 長	<p>そうですね。今のところは現状維持を考えているのですが、今後、料金引き上げな</p>

	<p>ど経営戦略を実行する中で、効率的な組織の運営を考えていかなければならないので、職員数を減らしていく部分と増やしていく部分がでてくると思いますのでプラスマイナスゼロになるかもしれないと考えています。</p>
委員	<p>令和12年までは大体予定数どおりで、それ以降はどうですか。減らしていくのですか。</p>
管理者	<p>定年退職者の補充をどこまでするかということになると思います。あともう一つ心配しているのが、技術者の方が採用者数がやはり少ないので、ぜひ会長、副会長には学生さんに高砂市上下水道部を勧めていただきたいようなところもあります。あまり減らし過ぎても技術の継承というところが問題になりますし、災害時の危機管理の観点からも災害対応の問題にもなります。そういう意味で一定の職員数を保つ必要がありますけど、やはり水道料金、下水道使用料で賄っている企業ですので、その辺のバランスを見ながら進めていきたいと考えています。</p>
委員	<p>維持管理に関してはアウトソーシングできるけれど、災害時の危機対応に関しては上下水道部の方が対応されるということで、やはり人数が少なくなると難しいことがわかりました。予算もかかるけれどもやはり現行維持したいということですね。</p>
管理者	<p>民間委託に関しては、委託したときはよいのですが、委託して長くその体制が続くとノウハウが上下水道部のほうに残らなくなってしまふ、非常にその辺の危険性があります。そういう意味でもやはり技術継承できるような人数は確保するべきだと考えています。</p>
委員	<p>それは技術だけではなく、事務のほうも一緒だと思います。高砂市全体として今は退職者の補充を抑えたりしているのですか。</p>
管理者	<p>これは違う部署の話ですが、市全体で定員適正化計画というのを策定しております。適正化とは単なる削減だけではなくて適正な人数を確保するという意味の適正化で、まだ今は年金制度などの関係もあり、再任用とか65歳までの任用を行っていますが、間もなくおそらくですが定年の延長というようなこともあると思います。私自身もその年齢の対象ではありますけれど、本当はやはり若い人に入っていただくというのが一番良いと思うのですが、今はそういう制度の中で現在の状況が続いているところです。</p> <p>そういう若い人に入っていただくことも重要視しなければならないですが、一方で就職氷河期の対策というところで、新卒の方だけでなく幅広い採用というようなことも考えていかなければならない、非常に多方面に気を使いながら採用していかなければならないのが現状です。</p>
会長	<p>その他、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>

	<p>それではこれで3つの経営戦略（案）を本日お認めしたということで、これでまた（案）として提案していただいて、次はまた（案）からこれを実行に移すにはどうするかということで、議論を今後またさせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p><b>(4) その他</b> 今後の審議会スケジュールを説明。</p>
会 長	<p>今の説明について何かご質問等ありますでしょうか。 本審議会で3つの経営戦略（案）を作ったので市民の皆さんにこの案でよいかのご意見をいただくパブリックコメントを実施されるということです。そこで市民の皆さんのご意見を受けて我々でもう一度検討して、最終の案を高砂市長に答申するというような流れになるということです。 本日はどうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>本日の内容の質問、意見の提出方法を説明。締めの挨拶。</p> <p><b>3 閉会</b></p>